

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775700343		
法人名	有限会社 八佳堂		
事業所名	グループホーム優悠館		
所在地	大阪府四條畷市岡山東4丁目7-8		
自己評価作成日	平成23年3月28日	評価結果市町村受理日	平成23年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常磐町2-1-8 親和ビル4階
訪問調査日	平成23年4月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の入浴(365日) ご本人の状態、意志を確認しながら短時間でも毎日(雨天は除く)施設外へ出る あたりまえの暮らしを日々つみ重ねる
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「その人らしく、楽しく、健康に暮らしていただけることを応援します」との理念を、物理的環境の整え、個人性の尊重、自由に配慮することで、具現化を図っていることが伺える。気楽に屋外の空気に触れる中庭やウッドデッキ、ソフト足元で軽快なフローリング、自然な動きで寝返りができ、安全で快適なセミダブルベッドの整備などが充実している。自慢の職員集団は、ほぼ全員が長期間勤務し、多種の資格をもつ熟練者で、利用者が当たり前の生活を続けるよう支援をしている。一人ひとりに寄り添い、スケジュール化しない介護により、利用者は日常生活を、自ずから自分の思うようにゆっくりとした時間を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員には話し合いなどの機会を通じて、家族には便りやホームページなどで共有をはかっている。家庭的な雰囲気を壊したくない信念から、事業所内の掲示はあえて行っていない。	理念を「みんながってみんないい」と踏み込み、施設とは対照的で、どこにでもある感じの、安全で落ち着いた場所であると、職員は誇りをもって職場を語る。ホームの願いが生活の中に流れていることを表している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が孤立しているわけではないが、積極的に交流しているとはいえない。自然な関係がいいのではないかと考えている。	日常の暮らしの中では、散歩時に行き交う近隣の人たち、保育園児と気安く声かけや話している。商工会主催の商工まつりのブースに出展したり、近隣中学生の職場体験の受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々の暮らしに生かしているとはいえない。近所は若い年代の家族が多いので、認知症への理解が薄いように思える。高齢者世帯からの相談等は時折ある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおよそ2か月に1回の実施。和気あいあいの雰囲気の中での話し合いを通じ、サービスの見直し向上に活かすよう努力している。	年6回開催し、事業所からは、自己評価・外部評価、消防訓練などの報告を行っている。家族からの質問、市職員からの研修会案内などもなされているが、委員からの要望・提言などの話し合いが十分とは言い難い。	会議は、外部の人々を交えて意見交換し、地域に開かれたサービスとして質の確保を図る機会である。知見者も加えるなどし、双方向な会議となるような配慮を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者、広域連合担当者とは、日頃から連絡を取り合っており、協力関係は築けている。	大阪府社会福祉協議会主催の研修の現場として事業所を提供している。市から2人の介護相談員の派遣を受け入れている。くすのき広域連合会事業者連絡会員として情報交換、相談所開設などで関係を深くしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員は理解し、身体拘束をしないケアを行っている。	転倒危険回避用のヘッドギアの着用、ベットの手すり取り付けなどの要望が、家族からだされた際は、拘束しない工夫を話し合い、理解を得ている。玄関は施錠してはなく、心理的拘束感はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所連絡会などの研修の機会を通じ、職員同士で話し合い、防止に努めている。入浴時などには身体状況に異常がないかを注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修等ではそれぞれが学ぶ機会はあると思うが、内部研修は行っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけて十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	少人数の事業所でもあるので利用者、家族の意見が直接反映できる体制となっている。	カラー写真版の新聞「優悠」は、一目で生活の様子が分かり、家族は安心している。職員は家族からの話をいつでも聞ける状態にしている。滑り止めの設置、トイレへの誘導などでの気がかりなことにも手早く対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者と職員間のコミュニケーションは取れており、意見の反映はできている。	気さくに相談できる職場となっている。居室の変更、食卓の配置変え、シーツを使つての避難訓練など、利用者のための前向きな提案を取り入れている。ボランティア残業はなく、職員は全面的に利用者と対面している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与、労働時間等十分配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける機会は確保されている。内部研修は職員数が少ないこともあり、日常の話し合いなどで処理することが多くなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪GH協、くすのき連合事業所連絡会、市内事業所連絡会、民間事業所連絡会などに所属し、ネットワークをつくっている。他施設からの実習も積極的に受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	早期にご本人が安心感を得られるようチームとして情報を共有し声掛け支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が入居に際して罪悪感や不安を感じないよう出来る限り傾聴する姿勢をこころがけ対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、計画作成担当が家族と相談し、支援の必要性を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の各場面で利用者ができる限り主体性をもって参加できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来館された折には利用者の様子などを伝え家族が身近に感じられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と相談協力しながら馴染みの人たちの訪問も積極的に受け入れている。	今まで親しかった知人・友人などの来訪時には、家族とも連絡を取り、今後も関係が長く続くよう意を注いで歓迎している。またその際に知り得た本人が元気な頃のエピソード、趣味などを、日常の支援の中で役立てている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が円満に保たれるよう見守り声掛けをし、支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰についてはケアマネを紹介し、本人家族とも関係を切らさないよう努めている。また入院他施設への移行についても同様である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人の意向を把握、思いに添ったケアができるよう努力している。	不自然に示す動き方に接したり、行動を選択してもらった場面で、聴く気遣いを示すことにより、利用者からのサインを受け取る。会話で本人の意向を確認するように、心が向かい合う時間をゆとりをもって普通に取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時から現在まで常にご本人のことが知れるよう努力している。場合によってはそれまでの生活環境をしるべく、居宅訪問をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チームで情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのありかた等は本人家族職員間で話し合い決定しているが、援助方法の変更などは短時間のミーティングで決めることがあり実践が先になることもある。	計画作成者は、カンファレンスを随時行い、家族とも相談しながら、3か月単位で見直しを行っている。入浴時には可能な限り自立支援をし、個々の状態に応じて、寝たきりにさせないようにするなどのプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡帳への記入など情報の共有は出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別性のある記録作成により観察ポイントの明確化統一されたケアの実践ができています。またケア計画の見直しにも生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	機械浴サービスを受けておられる方がおられるが費用もかかるため、全体としては無料の資源を利用するよう心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医師には定期往診、臨時往診などをしていただいているので適切な医療を受けられていると思われる。	従来のかかりつけ医が大病院であったとか、距離が遠くなるなどの理由で、利用開始時に変更するケースはあるが、ほとんどは協力医療機関で受診している。内科医往診は隔週あり、受診結果などは家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職は情報を共有している。協力して必要な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族を介して又は介護者が病院へ面会に行き情報交換、情報収集をし、早期退院にむけ対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度タイミングをみて話し合いを行い、できる限りご本人や家族の希望に添えるよう取り組んでいる。	利用者や家族が安心してサービスを利用できるよう、避けて通れない看取りに関する指針を作成し、説明をしている。個々の状況の変化に応じ段階的に、家族の意向を確認し、医師とも話し合い、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべて十分に訓練できているとは言えないが、初期対応については折にふれ話し合い、概ねクリアできていると考える。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の消防点検、消防計画の提出は完了している。年2回の訓練を行っている。また地域との協力体制も検討している。	夜間想定した避難も含め消防訓練を年2回実施している。スプリンクラー設置の補助金申請中である。非常用備蓄、バックアップ施設との協力依頼を行っているが、地域との協力体制作りの具体化までには至っていない。	自治会、住民との連携を図り、消火・避難に協力してもらえる態勢は非常時に役立つ。地域へ働きかけると同時に、家族に非常時の連絡体制などを伝え、確認することが求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	折にふれ、職員間のミーティングで話し合い心掛けています。	入浴やトイレの使用時間で、効率を優先させないことにしている。職員間での利用者に関する話題は、個人の名前を特定しないように心を配り、利用者の介護資料の持ち出しは厳禁である。配布資料を回収する場合もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や思いを述べやすい環境づくりをすることにより、自己決定ができるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	細かく一日の予定を決めるのではなく、その日の状況に応じて柔軟に対応している。また集団行動を強いらないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人個人の好みを取り入れ、ご家族とも相談しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付けとも、利用者ができる限り参加できるよう支援している。	利用者は対面キッチンから料理する賑わいやにおいを共感している。盛り付けなどを手伝い、役割感を覚え楽しんだりしている利用者もいる。落ち着いたテーブルを囲って、静かに食事に集中できる雰囲気が漂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して、季節、INOUTのバランスも考慮し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況に合わせて対応できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状況に応じ、できる限りトイレで自力排泄できるよう支援している。	排泄リズムは介護日誌で把握している。職員はもよおした時のサインなどを把握し、情報を共有している。排泄の自立に向けて、利用者の状態に応じて、トイレの近くに部屋を変更するなどの工夫をすることもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターン、飲食物の効果、運動などを活かせるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴が基本である。その日の気分やタイミングを見合わせ入浴していただけるよう声掛け支援している。	利用者は入浴をくつろぎの時間として、ほぼ毎日20分～30分風呂に浸かることを楽しんでいる。一人ずつ入浴準備、洗身、洗髪、ドライヤーなどの見守り援助を行っている。自立のきっかけ作りにもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望や体調にあわせ休息できるよう支援している。また休息する場所の工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は目的、副作用について理解できている。医師、薬剤師とのコミュニケーションを図り服薬の効果、症状の変化に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	小さなことでも個々の力を活かせるよう役割づくりに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在地域の人々と協力しながらの外出はないが、ご家族の支援のもと外出していただいている。	ほぼ全員が毎日近くを散歩し、歩行困難な場合は車椅子などを利用して戸外に出かけている。玄関やウッドデッキで日向ぼっこをし、陽だまりの温かさを楽しむことも常態化している。花見などの行事に家族も一緒に出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在金銭を自己管理、手元に所持されている方はない。希望があればご家族の協力を得て、支援する体制にはなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員が介助し電話をかけ、取り次ぎも行っている。携帯電話の制限は行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気づくりを心掛けている。華美または幼稚な装飾をしないようにしている。	木の素材感を大切に温かく、安らぎのある内装になっている。利用者に不要な刺激になるような装飾物もなく、落ち着ける環境を作っている。ゆったりとしたロビーは、家族や訪問者が利用者と楽しく集える場所にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも、スペースごとにホッとできる空間を作る工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものや好みのものをお持ちいただくよう説明、入居後もご本人の希望、ご家族と相談しながら居室づくりを行っている。	高級感も醸し出し、しかもベッド柵も不要にするセミダブルベッドを備えて、日常生活を支えている。室内の写真や家具は、利用者のこれまでの生活習慣や経歴を感じさせ、その人らしく過ごしている様子を伺わせる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の声掛けが常にあるので、入居者に不安は感じられない。安全面については常に心掛けている。		